

## ハクガン（カモ科） 全長67センチ

11月3日、大潟村で約1000羽のハクガンの群れが見られました。ここ数年でかなりの数が増えているようだ。地元会員の情報では、その数日後に1500羽が観察されたそうです。

かつては日本で年に1～2羽程度しか観察されなかった時代と比べると、想像できない程の数である。北海道や青森県でも観察されているが、渡りの途中に立ち寄るだけです。宮城県伊豆沼にも飛来するが、これほど多くはないようだ。これほどまとまって見られる場所は、国内では大潟村だけのようです。

大潟村は越冬地として、2月下旬頃まで滞在することでしょう。広大な田んぼは人影も少なく、過ごしやすい環境です。マガンやヒシクイ、ハクチョウ類が、数万から十万を越す数が集合しても、それを支えるだけの餌が豊富にあるからでしょう。



ハクチョウと似ているが風切り羽の先端が黒い。

(2021-11-3 大潟村)

遠目から見るハクガンの群れは真っ白い塊に見え、比べてみるとハクチョウ類よりも白さが際立ちます。「コー、コー」と濁りのないよく通る声が聞こえてくると、次々と舞い上がった。

ものすごい数の塊が頭上を横切ると、感動の歓声が上がった。まもなく遠く離れたところを旋回し、再び元の場所に戻って来た。



やや小さいシジュウカラガンも一緒だった。



一斉に飛び立った。下の黒っぽいのはマガンとヒシクイ。

次々と地上に降り立つハクガンの美しさに、再び感動であった。まるで凱旋パレードの観衆に真っ白い紙切れがヒラヒラと舞い散るようでもある。

他では味わえないであろう光景に感動、感謝、感激でした。



ものすごい数が頭上を横切った。



ヒラヒラと仲間の元へ舞い降りる。